

ISJ 海外セミナーをマニラで開催

～フィリピン損保市場の健全な発展のために参考となる日本の取り組みを紹介～

一般社団法人日本損害保険協会(会長：城田 宏明、以下：損保協会)では、公益財団法人損害保険事業総合研究所(以下：損保総研)と共催で、2024年度のISJ海外セミナー(※1)を、2025年2月18日(火)にマニラ(フィリピン)で開催しました。マニラでのセミナー開催は、1995年、2010年、2015年に続き4回目となります。

今回のセミナーは、フィリピン損害保険・再保険協会(Philippine Insurers and Reinsurers Association、以下：PIRA)と協力して開催しました。当協会とPIRAは、2018年6月に、情報交換や人的交流を目的とした協力覚書(MoU)を締結しており、今回のセミナーは、これに基づく協力事業としての位置づけも持っています。

セミナーでは、フィリピン損保市場で課題となっている4つのトピックとして、ORSA(Own Risk and Solvency Assessment：リスクとソルベンシーの自己評価)や、適正な料率での保険引き受け、自然災害リスクに関するプロテクションギャップ解消に向けた取り組み、経営戦略や商品・サービス向上のためのDX活用等、事前調査により選んだ現地課題を取上げました。また、解決案を提示することにより、業界関係者の認識・理解を深め、検討進捗の契機としました。

講師は、会員会社3社(東京海上日動社、損保ジャパン社、三井住友海上社)の他、金融庁から池田総合政策課長にも出席いただき、ORSAが、保険監督者だけでなく保険会社の経営管理も有用であることを伝え、各保険会社の積極的な対応を促していただきました。(詳細は添付プログラムご参照)

当日は、フィリピンの損保会社だけでなく、保険監督当局である財務省保険庁(Insurance Commission, Department of Finance)や保険関係団体の役職員107名が参加し、時間内に回答できないほど多くの質問が寄せられました。

開会式では、損保総研の後藤浩之 理事長、フィリピン損害保険・再保険協会(PIRA)のジジ(Gigi)会長、フィリピン財務省保険庁(Insurance Commission, Department of Finance)のアルトゥーロ(Arturo)副長官、在フィリピン日本国大使館の二瓶大輔 経済公使が挨拶を行いました。ジジ会長からは、セミナーで学んだことを自社に取り入れ業務を改善するよう、参加者に呼びかけが行われました。ジジ会長には、終日、全講義を受講いただいています。

夕刻には、ISJ卒業生同窓会を開催し、フィリピンのISJ一般・上級コース卒業生と交流を深めました。

損保協会では、今回のセミナーがフィリピン損保市場の健全な発展につながる「個別国支援」としての機能を果たすよう、各講義で高まった課題解決の機運を捉え、引き続き、情報提供等の支援を継続してまいります。

(※1)当協会と損保総研では、国連貿易開発会議(UNCTAD)の勧告とアジア最大の国際保険会議である東アジア保険会議(EAIC)の要請を契機に、東アジア各国・地域に対する保険技術協力・交流プログラムとして、1972年から毎年、ISJ(日本国際保険学校、Insurance School (Non-Life) of Japan、以下：ISJ)を開講しています。ISJでは、各国・地域の損害保険会社、保険監督官庁等の職員を日本に招いて行う「一般コース」、「上級コース」(※2)の他に、1993年から、日本の損保業界の経験を伝え、現地損保業界の継続的で健全な発展に役立てていただくとともに、両国業界関係者の相互理解および交流を深めることを目的として、日本から講師を派遣して各地のニーズに応じたテーマで講義を行う「海外セミナー」を実施しています。

(※2)ISJ一般・上級コースには、フィリピンから延べ258名が参加しており、多くの卒業生がフィリピンの損保市場で重要なポストに就いて活躍しています。



開会式で挨拶する PIRA の Gigi 会長



質問に回答される金融庁・池田課長(左から2番目)

添付：

1. 日本国際保険学校 (Insurance School (Non-Life) of Japan: ISJ) の概要
2. 2024 年度 ISJ 海外セミナー (マニラ) プログラム

日本国際保険学校 (Insurance School (Non-Life) of Japan: ISJ)

■東アジア各地域の損保業界と相互理解、交流強化を目的とした保険技術協力プログラム

2025年3月現在

	一般コース	上級コース	海外セミナー
1. 設立(開講)年	1972年(昭和47年)	1991年(平成3年)	1993年(平成5年)
2. 設立経緯	国連貿易開発会議(UNCTAD)の勧告および東アジア保険会議(EAIC)の要請を受けて関係委員会で検討。本邦損保業界が東アジア地域の損保業界に対して行う純粋な海外技術援助研修プログラムとして発足した。	1987年(昭和62年)の保険審議会答申指摘事項(ISJの充実)を契機に 関係委員会で検討、既存の「一般コース」とは別に中堅、管理職層の者を対象としたワークショップ形式のより高度な研修プログラムとして発足した。	1992年10月の協会理事会で了承された業界課題「国際交流の推進」を具体化するものとして、ISJ 参加地域に講師を派遣し、現地で関心のあるテーマについてセミナーを行うプログラムとして設けられた。
3. 目的	東アジア地域の損保事業関係者に対し、損保に関する教育・研修を行い、同地域の損保市場の健全な発展に寄与するとともに友好・親善を図る。		
4. 主催者	一般社団法人日本損害保険協会および公益財団法人損害保険事業総合研究所 [共催]		
5. 対象地域	合計16地域 (ISJでは、国名ではなく都市名で表記しています) バンコク、香港、ジャカルタ、マニラ (1972年から) マカオ (1988年から)、プノンペン (1999年から)、クアラルンプール、シンガポール (1973年から)、北京、台北 (1989年から)、ウランバートル (2007年から一般コースのみ)、ソウル (1978年から)、ハノイ (1994年から)、ウランバートル (2015年から上級コース追加)、バンドルスリブガワン (1986年から)、ネピドー (1996年から)、ビエンチャン (2016年から一般コースのみ)		
6. 参加者枠 (受入限度)	30名 <3名>北京、マニラ、プノンペン、台北 <2名>バンコク、ハノイ、ジャカルタ、クアラルンプール、ネピドー、ウランバートル <1名>バンドルスリブガワン、香港、マカオ、ソウル、シンガポール、ビエンチャン	32名 <3名>バンコク、ジャカルタ、クアラルンプール <2名>北京、ハノイ、ネピドー、香港、マニラ、プノンペン、ソウル、シンガポール、台北、ウランバートル <1名>バンドルスリブガワン、マカオ、ビエンチャン	1都市あたり100名程度を目安
7. 卒業生数	1,652名 (第1回~第50回) うち保険監督官庁からの参加者数は277名	696名 (第1回~第34回) うち保険監督官庁からの参加者数は136名	約6,240名 (第1回~第31回)
	*一般・上級コースとも、卒業生からは、各地域の保険当局、業界の主導的立場に立つ人物を輩出		
8. 場所/期間	東京/毎年、秋(通例11月~12月)に約2週間	東京/毎年、春(通例5月~6月)に約2週間	ISJ参加地域/毎年、1~2地域で開催
直近の開催実績	2024年11月18日~11月22日(オンライン) 2024年11月28日~12月4日(来日) テーマ:「損保業界に求められる業務品質と専門的知識・スキルの向上」	2024年5月29日~6月4日(オンライン) 2024年6月12日~6月18日(来日) テーマ:「損害保険市場における持続可能な成長戦略の策定」	2025年2月18日(対面) 開催地域:マニラ(フィリピン) テーマ:「不確実性の時代における損害保険会社の挑戦」
9. 講師	損保総研専任講師、損害保険会社(含、協会)から選出された職員、および業界外特別講師(大学教授等)が講師を務める。		
10. 言語	英語(海外セミナーでは、開催都市により、英語または日本語での講義を、各現地語に通訳することがある。)		

〈参考：これまでの海外セミナー開催地〉

第1回：1993年香港(80名)、ハノイ(90名)	第2回：1994年クアラルンプール(96名)、シンガポール(65名)	第3回：1995年ジャカルタ(120名)、マニラ(70名)	第4回：1996年台北(114名)、ソウル(91名)
第5回：1997年北京(120名)、上海(75名)	第6回：1998年ハノイ(60名)、ヤンゴン(90名)	第7回：1999年シンガポール(127名)	第8回：2001年ハノイ(130名)、クアラルンプール(90名)
第9回：2002年北京(126名)、上海(86名)	第10回：2003年ソウル(97名)、台北(121名)	第11回：2004年ジャカルタ(221名)、マニラ(107名)	第12回：2005年ハノイ(118名)、ホーチミン(90名)
第13回：2006年フロンペン(140名)	第14回：2007年ハノイ(110名)、クアラルンプール(91名)	第15回：2008年ソウル(115名)、台北(120名)	第16回：2009年ハノイ(121名)、ホーチミン(118名)
第17回：2010年マニラ(125名)、ウランバートル(76名)	第18回：2011年ジャカルタ(220名)	第19回：2012年ヤンゴン(95名)、フロンペン(175名)	第20回：2013年ハノイ(205名)、ホーチミン(110名)
第21回：2014年ハノイ(246名)	第22回：2015年マニラ(253名)	第23回：2016年ヤンゴン(219名)	第24回：2017年ジャカルタ(166名)
第25回：2018年ヤンゴン(130名)	第26回：2019年ハノイ(280名)	第27回：2020年ハノイ(165名) (オンライン)	第28回：2021年ジャカルタ(300名) (オンライン)
第29回：2023年ピエンチャン(45名) (オンライン)	第30回：2024年フロンペン(120名)	第31回：2025年マニラ(107名)	

2024 年度 ISJ 海外セミナー（マニラ）プログラム

- 開催日: 2025 年 2 月 18 日（火）
- 会 場: New World Makati Hotel
- テー マ: 不確実性の時代における損害保険会社の挑戦

時間	プログラム	講師等（敬称略）
08:30 - 09:00	受付	
09:00 - 09:40	開会あいさつ	損害保険事業総合研究所理事長 後藤浩之 フィリピン損害保険・再保険協会(PIRA)会長 Generosa Pio de Roda（ハネロ・サ・ピ・オ・テ・ロ・ダ） フィリピン財務省保険庁(IC)長官 Reynaldo A. Regalado（レイナルド・レガラルド）*Arturo 副長官が 代理で挨拶 在フィリピン日本国大使館経済公使 二瓶大輔
09:40 - 10:25	(1) ORSA ～日本における ORSA 導入から現在までの取組～	金融庁 総合政策課長 池田 賢志
10:25 - 10:45	Coffee Break	
10:45 - 11:30	(2) 料率適正化 ～持続的な保険の提供と普及拡大～	損害保険ジャパン株式会社 リテール商品業務部 モビリティグループ 課長代理 原田 大輔
11:30 - 12:00	(1) (2)に関する質疑応答	
12:00 - 13:30	Lunch Break	
13:30 - 14:15	(3) 自然災害に対するプロテクションギャップの解消に向けた保険会社の取組	東京海上日動火災保険株式会社 火災・企業新種業務部 火災第一グループ ユニットリーダー 生田 裕樹
14:15 - 14:35	Coffee Break	
14:35 - 15:20	(4) 日本における DX の現状 ～経営戦略、商品・サービス向上への組み込み～	三井住友海上火災保険株式会社 ビジネスデザイン部 課長代理 滝澤 慶太郎
15:20 - 15:55	(3) (4)に関する質疑応答	
15:55 - 16:00	閉会あいさつ	フィリピン損害保険・再保険協会(PIRA)専務理事 Michael F. Rellosa（マイケル・レローサ）